

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	0170401798		
法人名	株式会社 日総		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム とみおか		
所在地	札幌市手稲区富丘2条4丁目11-15 (電 話) 011-695-3003		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年3月27日	評価確定日	平成21年4月7日

【情報提供票より】 (21年3月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年	3月	17日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	15 人	常勤	13人, 非常勤	2人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 24,000円 暖房費(11-3月) 9,000円	
敷 金	有 (円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (3月 13日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護 1	1 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	8 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	1 名	要支援 2			
年齢	平均 83.8 歳	最低	72 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	紺野整形外科クリニック、星置駅前内科医院、どうかい歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ふれあいの里グループホームとみおか」は、施設、病院、学校などに給食材料を供給している事業者が全道に多数展開している、グループホーム、特定施設などの一連の高齢者福祉事業群の一つである。当事業所は、閑静な新興住宅地に位置し、しかも幹線道路、JR駅にも近く、交通の便にも恵まれている。広い屋外スペースとリビング、食堂などの居住スペースを持ち、ゆったりとした生活を楽しむことができる。運営主体の特性を活かして医療との緊密な連携による安心と、美味しく栄養豊かな良質の食事提供を自負している。趣向と工夫を凝らしたレクリエーション活動で楽しみながら体を動かすことに力を入れ、食事とあいまって大きな健康効果を発揮している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 理念の改訂、地域との付き合い、運営推進会議の開催、市との連携強化、職員教育、災害対策訓練実施などの課題を提起され、災害対策訓練は実施され、運営推進会議は近日開催のめどが立つ、などの前進が見られているが、その他については今後に残されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価用紙をコピーして全職員に配布し、2週間ほどをかけて記入されたものを管理者がまとめて作り上げた。職員が記入し、作り上げる過程で日常業務の課題を再発見し、認識を新たにす効果は得られたが、事業所として具体的な改善課題に取り上げるまでには至っていない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は開設当初一度開かれて以来、長らく休眠していたが、このほど再開に向けて動き出したところである。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪は頻繁であり、対話の機会が多いので、忌憚のない意見を聞き出す関係作りに力を入れている。出された意見や要望は関係職員と話し合っって対処し、家族に報告するとともに、ミーティングで話し合い、記録に残して周知を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入してはいるが、会の活動自体限られており、実際に参加できる活動は稀である。焼肉パーティーなどの事業所の行事に近隣住民を招いており、今後この方面の活動に力を入れてゆく意向である。近隣住民が掃除や除雪のボランティアに来訪したり、小学生数人が頻繁に遊びに来るなどの交流が行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に、事業所独自の理念として、毎日の楽しい暮らし、利用者と家族の気持の尊重、職員との人としてのかかわりを大切に、との内容を掲げている。	○	前回外部評価以来の課題となっている、地域とのつながりを理念に含める改訂を、早い機会に実現することを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関および事務所の壁に掲げられ、いつでも目に触れる形になっており、職員の意識には浸透している。	○	理念が守られているか、ミーティングで確認するなど、理念が実際に活かされるためのもう一段の工夫を期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入してはいるが、実際に参加できる活動は稀である。焼肉パーティーなどの事業所の行事に近隣住民を招いており、今後この方面の活動に力を入れてゆく意向である。近隣住民が掃除や除雪のボランティアに訪れたり、小学生数人が頻りに遊びに来るなどの交流が行われている。	○	近隣の幼稚園との交流を検討中とのことなので、その実現に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価用紙をコピーして全職員に配布し、2週間ほどをかけて記入されたものを管理者がまとめて作り上げた。作り上げる過程で日常業務の課題を再発見し、認識を新たにすることができたが、事業所として具体的な改善課題に取り上げるまでには至っていない。	○	自己評価および外部評価を通じて明らかになった課題については、事業所の行動計画の中に明確に位置づけ、向上に結び付けてゆくよう、期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開設当初一度開かれて以来、長らく休眠していたが、このほど再開に向けて動き出したところである。	○	再開実現を期待したい
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現状は業務上の事務的なやり取りに止まっている。	○	市および区とは、視野を広げて交流し、多方面の行政の力やサービスを有効に活用することを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭出納はコピーを毎月送付し、幹部職員の異動は手紙で知らせている。行事などの連絡や報告は手紙や写真で行っている。利用者の生活状況、健康状態、受診の状況などは来訪の折詳しく知らせ、急ぎの時は随時電話で知らせている。	○	ホームの全般的な動向や情報を伝えるための手段として、定期的な「たより」発行の検討を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪は頻繁であり、対話の機会が多いので、忌憚のない意見を聞き出す関係作りに力を入れている。出された意見や要望は関係職員と話し合っって対処し、家族に報告するとともに、ミーティングで話し合い、記録に残して周知を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員を固定しており、馴染みの職員によるケアを心がけている。担当が変わる時は全職員が共同で援助する。退職する職員は利用者へのダメージを考慮して、知られないように姿を消すようにしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全介助など高度の介護技術について、該当する利用者をもとに各職員に実地指導している。外部研修は法人本部から対象者の基準が示され、該当者を派遣している。年間10名弱を受講させている。受講者はカンファレンスで発表し、知識を皆で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム協議会に参加して3ヶ月に1回程度他のグループホームと交流している。区内の医療、介護関係業者の交流の場である「Tネット」に参加して交流しているが、いずれも管理者のレベルまでである。法人内全事業所の交流が年に2回、同じく地区ブロックの集まりが毎月行われている。	○	法人内だけでなく、他法人の同業者と、一般職員も含めた交流の機会を検討するよう、期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人および家族が見学に来訪するよう奨めており、本人が来られない時は職員が会いに行くことで馴染めるよう、努めている。予め家族や入院先から情報を得て、対応に備える。始めのうちは担当職員だけではなく、全職員が緊密に接して、様子を見ながら早く馴染めるような対応を考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという認識を全職員が持ち、料理や縫い物などで教わりながら家事を分担している。職員は利用者に慰められ励まされる機会も多い。野球の試合で日本が勝てば共に歓喜し、入院する仲間を涙で送り出し、退院して戻れば抱き合って喜びを共にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとの担当職員が、日々の関わりの中で思いや意向の把握に努めており、理解が困難な時は申し送りなどで話し合い、全職員で知恵を出し合って把握に努めている。特定の職員に心を開くような場合にはその情報を尊重している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	医療関係者からの情報や家族の要望、担当職員からの情報を基に、計画作成担当者が介護計画を作成している。職員が確認後、利用者には全員個別に介護計画を説明して、署名出来る人には書いて貰っている。家族にも説明をして、確認を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月毎の見直しであるが、担当者の交代で見直しが定期的に行われていない。利用者の、体調変化や身体的変化に応じて、介護計画の見直しを行う予定であるが、現状に即した計画の見直しは行われていない。	○	3ヶ月毎の定期的な見直しを行うと共に、利用者の状況に応じて、現状に即した新たな介護計画を作成していく事を期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通常は、入院治療になる排尿カテーテルなどの治療も、専門医の協力により事業所で往診対応を行っている。家族や利用者の状況により、かかりつけ医への受診送迎を行う事もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、利用者や家族の意向を尊重して継続できるようにしている。定期的な受診は家族対応を基本としているが、緊急時は事業所で対応している。かかりつけ医とは挨拶を交わし、何かあったら連絡を貰い、必要時には情報を聞けるようにしている。	○	かかりつけ医とはさらに積極的な情報交換を行い、受診の際は必ず連絡を取り合うように期待したい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「入居者が重度化した場合の対応に係る指針」を作成して、入居時に説明をして署名を得ている。事業所として、医療行為が伴わなければ看取りも可能であると考えているが、今後、家族、医療機関、事業所など関係者と相談をして事業所としての方針を決めて行く予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の話をする時は、基本的にはスタッフルームで話すようにしているが、困難な時は小声で話したり、フルネームで言わないように配慮している。個人記録は、事務所で鍵をかけて保管している。来訪者は、業務日誌に職員が記録している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やラジオ体操、レクリエーションなど基本的な一日の流れはあるが、レクリエーション等は全員に声かけをするが無理強いはいないように配慮している。好きなレクリエーションに参加しない時は、さり気なく何度か声かけをして誘う事もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、法人内の管理栄養士が作成している。クリスマス会などに利用者の希望で寿司を食べたり、誕生会に希望を聞いて、利用者の好みの物を献立に取り入れている。職員も共に食卓を囲んで食事をし、後かたづけ等も一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月、金の午前から夕方まで入浴日としているが、体調や精神状態により入浴出来なかった利用者に対しては、臨機応変に対応を行い、週2回以上入浴出来るように支援している。入浴拒否者に対しては、歌をうたいながら脱衣所に行く事で入浴がスムーズに出来た例もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭きや洗濯物畳み、雑巾縫いなど利用者の状況に応じて役割を持って過ごせるように支援している。編み物や塗り絵、カラオケなどの楽しみごとを支援したり、季節の行事を行い、ひな祭り会には、ボランティアの琴の演奏やフラダンスを見て楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、庭に出て花を摘んだり、外気浴をしている。職員の数により、近くの公園の方へ15分～20分散歩を楽しんでいる。冬季は、ベランダで外気浴をしたり、家族と一緒に外食などに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの扉には、鈴を付けて利用者の出入りが分かるようになっている。ユニットの出入り口にスタッフルームを設けた間取りのため、利用者を見守り、安全面に配慮しやすくなっている。玄関も施錠はされていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回の外部評価を踏まえ、昨年12月に消防署の協力のもと、利用者も参加して夜間を想定した通報訓練、初期消火、避難訓練などの総合訓練を行っている。避難訓練を行う時は、近隣に訓練の案内を配布している。	○	今後、災害時の近隣への協力を呼びかけていきたい意向なので、その取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は個別に全員記録している。水分摂取量が少ない利用者には、牛乳寒天やヨーグルト、果物などを提供している。食事は、利用者の体調に応じて、糖尿病食、刻み食、とろみ食、お粥などで対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口などプライバシーに配慮しながら、法人内の他の事業所の間取りの経験を活かし、利用者の見守りがしやすい造りになっている。居間の壁には、梅の花やランドセル姿の子供の装飾、手作りの大きな日めくりが飾られていて季節感が感じられるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドや箆箆など利用者が使いやすいような家具が持ち込まれている。家族の写真や、大切にしていた人形などが飾られ、落ち着いて居心地良く過ごせるような工夫がされている。居室には、温度計と湿度計があり、過ごしやすい環境作りに配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。